

平成 19 年 6 月 22 日

長野県知事  
村井仁 殿

「八ヶ岳周辺のゴミ問題を考えるネットワーク」

灰溶融炉を考える会 呼びかけ人

茅野市金沢 3956-44 河西章

富士見町富士見 8255 細川宏子

原村 16267-101 小林峰一

八ヶ岳なんでも気にする若者の会 代表

原村 18014 篠崎 美和

八ヶ岳周辺のごみ問題を考える女性の会 呼びかけ人

富士見町境 1561-2 遠藤誠子

連絡先

〒391-0108 原村 16267-101

電話 0266-79-6977 小林峰一

諏訪南行政事務組合に対して灰溶融施設建設予定地周辺の活断層調査を行うよう指導を求める要望書

茅野市、富士見町、原村で構成する諏訪南行政事務組合が富士見町休戸に計画している灰溶融施設の建設予定地近くには糸魚川・静岡構造線の若宮断層（活断層）があります。信州大学副学長の小坂共栄教授（構造地質学）と一緒に予定地周辺を踏査した結果、糸魚川・静岡構造線と同じ方向に走る断層をいくつも確認しました。建設予定地一帯は、近くにある活断層に関連した断層地帯の可能性ががあります。

灰溶融施設は、1200 度以上の高温で処理する施設です。近くに活断層が存在する場合には、地震によって炉が破損する可能性が高くなります。溶融施設の場合には、炉が破損し溶融物が流れ出ると緊急停止をしても事故が回避できません。理由は、高温処理している溶融物が安全な状態に冷えるまでにはかなりの時間を要するためです。建設予定地のすぐ横には河川もあることから水蒸気爆発が起こる可能性もあり、周辺地区まで影響が及ぶことが懸念されます。

組合が行った灰溶融施設建設に伴う生活環境影響調査の報告書（平成 17 年 7 月）の中には、建設予定地周辺の地質について次のように記述されています。

「富士見町の南西側は赤石山脈の北端で、この山脈の東側を糸魚川・静岡構造線といわれる大きな断層が走り断層崖を作っているため、山腹の傾斜は大変急で平坦地が少なくなっている。また建設予定地のある富士見町の西山方面は、地質が脆弱なうえ急傾斜地のため、ここを流れる河川は激しい洗掘により崖状の侵食谷を形成しており、山地災害を起こしやすい地形となっている。」

諏訪南行政事務組合は、このような報告がされているにもかかわらず建設予定地周辺の活断層について調査を行っていません。灰溶融施設の建設に関する補助金（循環型社会形成推進交付金）の申請や認可については長野県も関係しています。住民の生命と安全を守る立場である県から諏訪南行政事務組合に対し、灰溶融施設建設予定地周辺の活断層について調査を行うよう指導を求めます。

なお、この要望に対し県が行った対応について文章にて回答をお願いします。